

(様式例第11)

地長機医事第 号  
令和 7年 10月 5日

長崎県知事 大石 賢吾 殿

住 所 長崎市新地町6-39  
申請者 地方独立行政法人長崎市立病院機構  
氏 名 理事長 門田 淳一

長崎みなとメディカルセンターの地域医療支援病院の業務報告について

標記について、医療法第12条の2の規定に基づき、令和6年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒850-8555 長崎市新地町6-39
氏名	地方独立行政法人長崎市立病院機構 理事長 門田 淳一

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

長崎みなとメディカルセンター
----------------

3 所在の場所

〒850-8555 長崎新地町6-39	電話 ( 095 ) 822 - 3251
------------------------	-----------------------

4 病床数

精神病床	感染症病床	結核病床	療養病床	一般病床	合計
床	6床	13床	床	494床	513床

## 5 施設の構造設備

施設名	設備概要
集中治療室	(主な設備) 救急蘇生装置、除細動器、ペースメーカー、心電計、ポータブルエックス線撮影装置、呼吸循環監視装置、人工呼吸装置、経皮的酸素分圧監視装置又は経皮的動脈血酸素飽和度測定装置微量輸液装置、超音波診断装置、心電図モニター装置、自家発電装置、電解質定量検査装置、血液ガス分析装置
化学検査室	(主な設備) 電気化学発光免疫測定装置、生化学自動分析装置、グリコヘモグロビン測定装置、血液凝固測定装置、多項目自動血球分析装置
細菌検査室	(主な設備) 血液培養自動分析装置、抗酸菌分離培養装置、同定感受性検査システム
病理検査室	(主な設備) 自動包埋装置、自動染色装置、自動免疫装置、自動封入装置、クリオスタット
病理解剖室	(主な設備) 解剖台、写真撮影装置
研究室	(主な設備) プロジェクター、モニター、電子カルテPC
講義室	室数 1 室 収容定員 150 人
図書室	室数 1 室 蔵所数 2500冊程度
救急用又は患者搬送用自動車	(主な設備) 保有台数 1 台
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床面積 33.93 m <sup>2</sup> [共用室の場合]

(注) 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器等を記入すること。

(様式例第12) 他の病院又は診療所から紹介された患者に対し医療を提供する体制が整備されていることを証する書類及び救急医療の提供実績

1. 地域医療支援病院紹介率及び地域医療支援病院逆紹介率

地域医療支援病院紹介率	89.2%	算定期間	令和 6年 4月 1日～ 令和 7年 3月 31日
地域医療支援病院逆紹介率	169.9%		
算出根拠	A : 紹介患者の数		7,729人
	B : 初診患者の数		8,663人
	C : 逆紹介患者の数		14,715人

(注) 1 「地域医療支援病院紹介率」欄は、AをBで除した数に100を乗じて、小数点以下第1位まで記入すること。

(注) 2 「地域医療支援病院逆紹介率」欄は、CをBで除した数に100を乗じて、小数点以下第1位まで記入すること。

(注) 3 それぞれの患者数については、前年度の延数を記入すること。

(様式例第13) 救急医療を提供する能力を有することを証する書類

1 重症救急患者の受入れに対応できる医療従事者の確保状況 (令和7年3/31現在)

No.	職種	氏名	勤務の態様	勤務時間	備考	
1	医師		常勤 非常勤	専従 非専従	38.75	
2	医師		常勤 非常勤	専従 非専従	38.75	
3	医師		常勤 非常勤	専従 非専従	38.75	
4	医師		常勤 非常勤	専従 非専従	38.75	
5	医師		常勤 非常勤	専従 非専従	38.75	
6	医師		常勤 非常勤	専従 非専従	38.75	
7	医師		常勤 非常勤	専従 非専従	38.75	
8	医師		常勤 非常勤	専従 非専従	38.75	
9	看護師		常勤 非常勤	専従 非専従	38.75	
10	薬剤師		常勤 非常勤	専従 非専従	38.75	
11	放射線技師		常勤 非常勤	専従 非専従	38.75	
12	臨床検査技師		常勤 非常勤	専従 非専従	38.75	

2 重症救急患者のための病床の確保状況

優先的に使用できる病床	4床
専用病床	16床

(注) 一般病床以外の病床を含む場合は、病床区分ごとに記載すること。

### 3 重症救急患者に必要な検査、治療を行うために必要な診療施設の概要

施設名	床面積	設備概要	24時間使用の可否
手術室 (9室)	418.63㎡	(主な設備) 手術台、モニター、無影灯、麻酔器、顕微鏡、電気メス、手術用内視鏡システム、除細動器、患者加温装置、血液ガス分析装置	可
ハイブリット手術室	53.3㎡	(主な設備) アンギオ装置、モニター、電メス、除細動器	可
初療室	116.6㎡	(主な設備) 無影灯、エコー、人工呼吸器、モニター、ストレッチャー、麻酔器、除細動器、輸液加温装置	可
放射線室	304.1㎡	(主な設備) 一般撮影4室、血管造影室2室、CT室2室それぞれ一般撮影機器、血管造影装置及びCT設置	可
	㎡	(主な設備)	

### 4 備考

心臓血管内科においては医師直通のホットラインにより24時間対応可。小児科においても医師を24時間配置。脳神経外科・内科においては長崎大学病院と分担して週3日の夜間・休日ホットラインを設け、残る4日は専門医によるオンコール体制としている。

(注) 特定の診療科において、重症救急患者の受入体制を確保する場合には、その旨を記載すること。

既に、救急病院等を定める省令(昭和39年厚生省令第8号)に基づき都道府県知事の救急病院の認定を受けている病院、救急医療対策の設備事業について(昭和52年7月6日付け医発第692号厚生省医務局長通知)に基づき救急医療を実施している病院にあつては、その旨を記載すること。

### 5 救急医療の提供の実績

救急用又は患者輸送自動車により搬入した救急患者の数	4,086人 ( 4,059人)
上記以外の救急患者の数	3,659人 ( 4,732人)
合計	7,745人 ( 8,791人)

(注) それぞれの患者数については、前年度の延べ数を記入すること。

括弧内には、それぞれの患者数のうち入院を要した患者数を記載すること。

### 6 救急用又は患者輸送用自動車

救急用又は患者輸送用自動車	1台
---------------	----

(様式例第14) 地域医療従事者による診療、研究又は研修のための利用(共同利用)のための体制が整備されていることを証する書類

1 共同利用の実績

対象述べ病床数 1,820床  
 利用回数 4回  
 共同利用を行った医療機関延べ数 4 (①)  
 上記の内、開設者と直接関係のない医療機関の延べ数 4 (②)  
 共同利用率 100% (②/①×100)  
 利用延病床数 4床  
 病床利用率 0.22%

(注) 前年度において共同利用を行った実績がある場合において、当該前年度の共同利用を行った医療機関の延べ数、これらの医療機関のうち開設者と直接関係のない医療機関の延べ数、共同利用に係る病床の病床利用率を明記すること。

2 共同利用の範囲等

建物全部(病棟、手術室等)  
 設備 CT、MRI、RI、血管連続撮影装置、腹部エコー他  
 機器 上記に付随する器械及び器具一式

(注) 当該病院の建物の全部若しくは一部、設備、器械又は器具のうち、共同利用の対象とする予定のものを明記すること。

3 共同利用の体制

ア 共同利用に関する規定の有無 有  
 イ 利用医師等登録制度の担当者 氏名:  
 職種:事務

(注) 共同利用に関する規定が有る場合には、当該規定の写しを添付すること。

4 登録医療機関の名簿

医療機関名	開設者名	住所	主たる診療科名	地域医療支援病院開設者との経営上の関係
別紙1のとおり				

注 当該病院と同一の2次医療圏に所在する医療機関のみ記入すること。

常時共同利用可能な病床数	20床
--------------	-----

(様式例第15) 地域医療従事者の資質の向上を図るための研修を行わせる能力を有することの証明

1 研修の内容

別紙2のとおり
---------

2 研修の実績

(1) 地域の医療従事者への実施回数	16回
(2) (1) の合計研修者数	686人

(注) 1 研修には、当該病院以外の地域の医療従事者が含まれるものを記入すること。

(注) 2 (2) には、前年度の研修生の実数を記入すること。

3 研修の体制

- ア 研修プログラムの有無 有
- イ 研修委員会設置の有無 有
- ウ 研修指導者

研修指導者氏名	職 種	診療科	役 職 等	臨床経験数	特 記 事 項
	医師	呼吸器内科	院長	44年	研修責任者
				年	
				年	
				年	
				年	
				年	
				年	

(注) 教育責任者については、特記事項欄にその旨を記載すること。

#### 4 研修実施のための施設及び設備の概要

施設名	床面積	設備概要
講義室	93.05㎡	(主な設備) プロジェクターおよびモニター
研究室	14.35㎡	(主な設備) プロジェクター、モニター、電子カルテPC
	㎡	(主な設備)
	㎡	(主な設備)
	㎡	(主な設備)

(様式例第16) 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	院長
管理担当者氏名	医事課長 看護部長 患者総合支援センター長 薬剤部長 総務課長

		保管場所	分類方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約		各該当課及び室、科にて保管	日誌、診療録、エックス線写真にて分類
病院の管理及び運営に関する諸記録	共同利用の実績	患者総合支援センター	年ごとに帳簿管理
	救急医療の提供の実績	医事課	年ごと、月ごとにデータ管理
	地域の医療従事者の資質の向上を図るための研修の実績	総務課 医事課 患者総合支援センター	年ごとにデータ管理
	閲覧実績	医事課	年ごとにデータ管理
	紹介患者に対する医療提供及び他の病院又は診療所に対する患者紹介の実績の数を明らかにする帳簿	患者総合支援センター	年ごと、月ごとにデータ管理

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式例第17) 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

閲覧責任者氏名	院長
閲覧担当者氏名	医事課長
閲覧の求めに応じる場所	1階相談室
閲覧の手続の概要	
依頼時に必要用紙に記載してもらい、本人確認をする。 後日書類の受け渡し等行う。	

前年度の総閲覧件数		74件
閲覧者別	医師	0件
	歯科医師	0件
	地方公共団体	0件
	その他	74件

(様式例第18) 委員会の開催の実績

委員会の開催回数	4回	
委員会における議論の概要		
令和6年6月18日 対面会議 令和6年9月4日 対面会議 令和6年11月29日 対面会議 令和7年2月26日 対面会議		
＜議題＞		
1. 患者数統計について		
(1) 患者数統計について		
(2) 歯科事業統計について		
(3) 診療科別患者数統計について		
2. 地域医療支援病院紹介率について		
(1) 地域医療支援病院紹介率について		
(2) 地域別紹介・逆紹介件数について		
3. 救急受入患者について		
(1) 救急搬入患者内訳について		
(2) 救急車搬送件数内訳について		
(3) ヘリ搬送内訳について		
4. 共同利用の実施について		
5. 相談件数等について		
6. 地域医療従事者に対する研修について		
7. そのほか委員会全般についてのご意見・ご質問等について		

(注) 委員会の開催回数及び議論の概要については、前年度のものを記載すること。

(様式第19) 患者相談の実績

患者相談を行う場所	相談窓口・相談室・その他( )
主として患者相談を行った者 (複数回答可)	
患者相談件数	4,231人
患者相談の概要	
<p>医療福祉相談人数は、2024年度4,231人で前年度と比較すると136人増加。相談内容は退院・転院調整の相談が最も多く、2023年度は87.4%と上昇、平均在院日数の短縮傾向により退院・転院促進が行われており、急性期治療後のリハビリテーション及び療養に関する相談が割合として最多。救急搬送困難症例の一時収容機能及び下り搬送機能を充実させるため、即日の転院や早期転院パスによる転院調整も実施。</p> <p>院内外との連携のもと各種専門相談（脳卒中・心臓病相談窓口、がん相談支援センターなど）の相談体制を充実させ、患者や家族の不安軽減に努めている。相談内容は、医療費・生活費の問題、受診受療援助、療養中の生活課題、在宅ケア、家族関係の調整、受容援助、心理社会的課題への援助、住宅・住居の相談、就労・復学支援、その他に分類し把握。退院時共同指導料は、2024年度は2023年度と比較して28件の増加で60件実施。地域の医療従事者との顔の見える連携を引き続き促進し、質の高い患者相談体制の整備に努める。</p> <p>がん相談支援センターでは、ハローワークの出張相談等、仕事と治療の両立に向けた相談支援を継続して実施中。広く地域住民へのがんに関する情報提供及び広報、相談支援等を行っていく。</p>	

(注) 患者相談の概要については、相談内容を適切に分類し記載するとともに、相談に基づき講じた対策等があれば併せて記載すること。また、個人が同定されないよう配慮すること。

(様式第 20)

その他の地域医療支援病院に求められる取組みに関する書類（任意）

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	有・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 令和5年12月に日本医療機能評価機構の病院機能評価認定病院（一般病院2<3rdG:Ver. 3.0>）受審。 令和6年6月付けで更新。	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

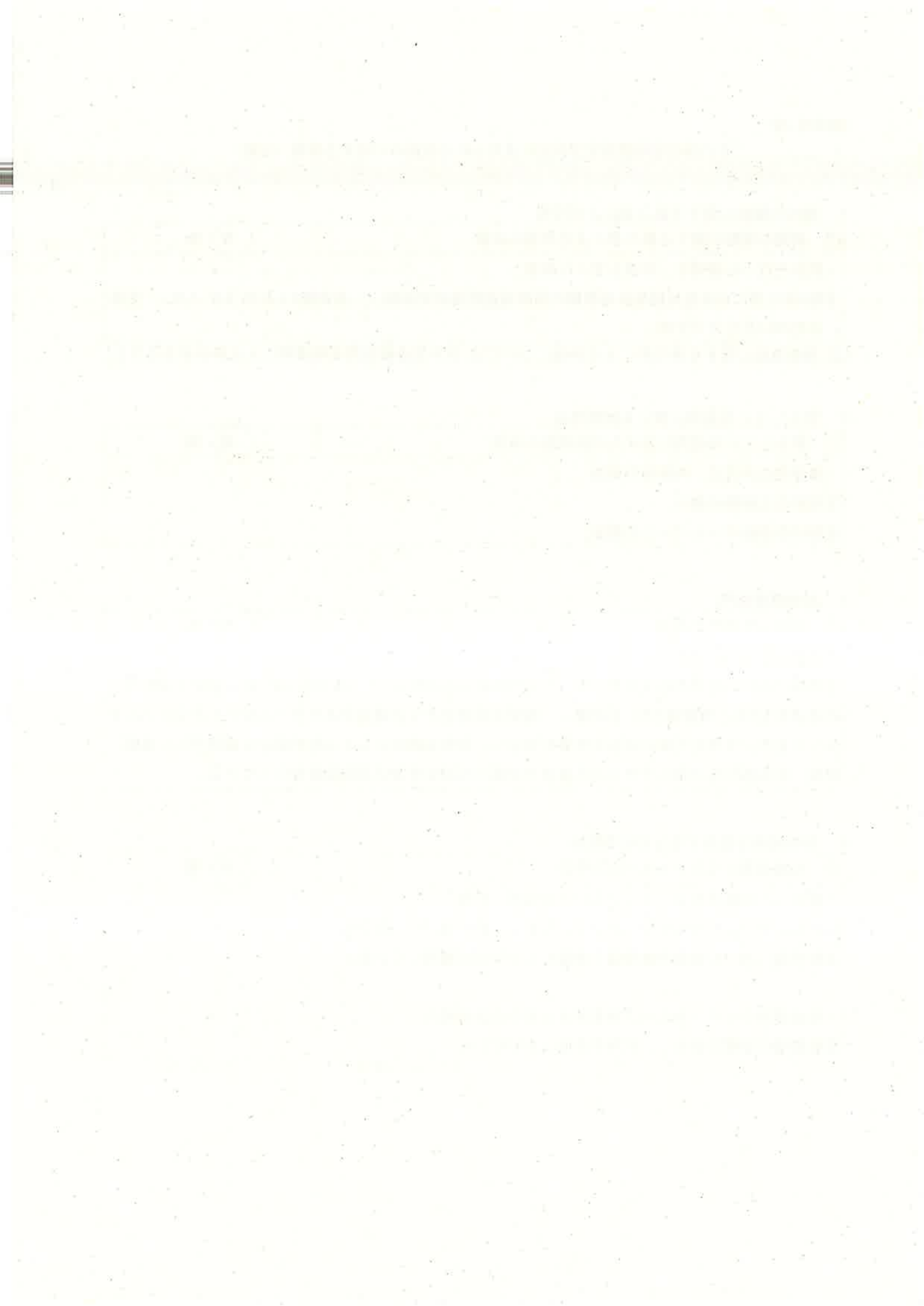
① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
・情報発信の方法、内容等の概要 定期的な広報紙の発行。 定期的な病院ホームページの更新。	

3 退院調整部門

① 退院調整部門の有無	有・無
・退院調整部門の概要 退院調整部門の患者総合支援センターに部門専従社会福祉士1名、専任看護師1名、退院支援職員（社会福祉士6名、看護師3名）を配置し、病棟担当制をとり退院支援スクリーニング・アセスメントシートを用いて退院支援が必要な患者を抽出し、急性期病院として入院早期から相談対応し退院、転院、在宅移行を円滑にできるよう患者や家族の相談支援及び退院調整を行っている。	

4 地域連携を促進するための取組み

① 地域連携クリティカルパスの策定	有・無
・策定した地域連携クリティカルパスの種類・内容 肺がん、胃がん、大腸がん、肝がん、乳がん、前立腺がん、膵がん 上記疾患において関連医療機関と連携をとりながら運用している。  ・地域連携クリティカルパスを普及させるための取組み 医療機関の連携を強化し、利用率を向上させていく。	



## 地方独立行政法人長崎市立病院機構長崎みなとメディカルセンター 開放病床運営要綱

(趣旨)

第1条 この要綱は、長崎みなとメディカルセンター（以下「当院」という。）に設置する開放病床の運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(定義)

第2条 この要綱において開放病床とは、登録医（第4条第2項の規定により認定証を交付された者であって、同条第5項の規定により取り消しされていないものをいう。以下同じ。）が当院に診療情報提供書を提供し、入院させた患者に対し、当院に勤務する医師（以下「病院医」という。）と共同して治療にあたる当院内の病床をいう。

(開放病床の利用者)

第3条 開放病床を利用することができる者は、登録医とする。

(登録医の認定)

第4条 開放病床を利用しようとする医師は、長崎みなとメディカルセンター登録医申請書（第1号様式）に、次の各号に掲げる医師の区分に応じ、それぞれ当該各号に掲げる書類を添えて、院長に申請しなければならない。

(1) 歯科医師以外の医師 長崎みなとメディカルセンター登録医情報（医科）  
（第2号様式）

(2) 歯科医師 長崎みなとメディカルセンター登録医情報（歯科）（第3号様式）

2 院長は、前項の規定による申請があったときは、その内容を審査し、認定することを決定したときは、認定証（第4号様式）を当該申請を行った者に交付するものとする。

3 第1項の規定による申請内容に変更があったときは、速やかに長崎みなとメディカルセンター登録医変更・辞退届（第5号様式）を院長に提出しなければならない。

4 登録医の認定については、辞退の申し出がない限り、毎年自動更新とする。

5 院長は、登録医として不適格と判断した場合は、登録医の認定を取り消すことができる。

(規程の遵守)

第5条 登録医は、当院で共同指導を行うに当たり、当院の諸規程を遵守しなければならない。

(開放病床の利用)

第6条 登録医は、開放病床の利用に当たり、あらかじめ患者に対し、開放病床について十分に説明し、患者の同意を得なければならない。

2 登録医は、患者を開放病床に入院させようとする場合は、病院医に対し、診療情報提供書への記入その他の方法により、その旨を申し出なければならない。

3 前項の規定にかかわらず、患者が緊急で入院した場合であって、登録医が当該患者を開放病床に入院させようとするときは、病院医に対しその旨を申し出なければならない。この場合において、登録医は、当該申し出を行う前に当該患者又はその家族に対し、開放病床について十分に説明し、その同意を得るものとする。

4 前項の同意は、当該登録医の申し出により、当院の職員が患者又はその家族に対し、開放病床について十分に説明し、その同意を得ることをもってこれに代えることができる。

5 病院医は、第2項又は第3項の規定による申し出があったときは、当該患者を診察したうえで、開放病床の利用の可否を決定し、その結果を登録医に連絡しなければならない。

6 開放病床の入院に係る期間は、原則として2週間以内とする。

(共同指導)

第7条 登録医は、病院医と協議のうえ共同指導を行うものとする。

2 入院期間中は、病院医が主治医となり患者の治療にあたる。

3 登録医の共同指導にあたっては、名札及び白衣を着用するものとする。

4 登録医が行う共同指導の範囲は、口頭による説明のみとする。

5 共同指導を行う時間については、当院の休日を除く月曜日から金曜日までの午前8時45分から午後5時30分までとする。ただし、病院医が特に必要と認めた場合はこの限りではない。

6 登録医が開放病床で共同指導を行った場合、その共同指導に関する事項を登録医及び病院医は、当院の診療録に記載するものとする。

(医事紛争対応)

第8条 共同指導時に生じた医事紛争については、病院医及び登録医が協力して対応しなければならない。

2 共同指導の際に患者、家族その他関係者に損害を与えたときは、原則として当院が加入する損害賠償保険を適用する。ただし、登録医に重大な過失がある場合は、当院が負担した費用の一部又は全部を当該登録医に求償するこ

とができる。

(登録医の業務災害)

第9条 登録医が共同指導中に災害を被ったときは、当該登録医が加入する労働者災害補償保険、傷害保険その他これに準ずる保険により対処するものとする。

(登録医の研修・共同利用等)

第10条 病院医は、当院が実施する症例検討会、院内研修その他の会議に登録医を参加させることができる。

2 登録医は、当院の会議室、図書室その他病院医が必要と認める施設を利用することができる。

(委任)

第11条 この要綱に定めるもののほか必要な事項は、別に定める。

附 則

この要綱は、平成24年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成26年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成29年4月1日から施行し、第3条第5項の改正規定は、平成29年1月1日から適用する。

附 則

この要綱は、平成29年8月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成30年4月10日から施行し、平成30年4月1日から適用する。

附 則

(施行期日)

1 この要綱は、平成30年9月26日から施行する。

(経過措置)

2 この要綱の施行の際現に改正前の地方独立行政法人長崎みなとメディカルセンター開放病床共同指導登録医運営要綱の規定により登録医の認定を受けた者は、改正後の第3条による認定を受けたものとみなす。

附 則

この要綱は、令和2年4月1日から施行する。

附 則

(施行期日)

- 1 この要綱は、令和6年6月11日から施行する。

(経過措置)

- 2 この要綱の施行の際現にこの要綱による改正前の地方独立行政法人長崎みなとメディカルセンター連携医運営要綱（以下「旧要綱」という。）第3条第3項の規定により連携医の認定を受けた者は、この要綱による改正後の地方独立行政法人長崎みなとメディカルセンター開放病床運営要綱第4条第2項の規定により登録医の認定を受けたものとみなす。
- 3 旧要綱に定める様式による用紙は、当分の間、所要の調整をして使用することができる。

No.	医療機関名	医師名
1	奥内科医院	奥 保彦
2	たかすぎ内科クリニック	隆杉 正和
3	白井小児クリニック	永野 清昭
4	のりむらクリニック	法村 大輔
5	さかぐち泌尿器科医院	坂口 幹
6	やない小児科医院	楊井 正紀
7	やない小児科医院	楊井 章紀
8	ちひろ内科クリニック	土屋 知洋
9	晴海台クリニック	柴田 茂守
10	吉田医院	吉田 光夫
11	原口医院	原口 千春
12	井石内科医院	米田 圭子
13	はやし小児科	林 克敏
14	横田医院	横田 実
15	おおの整形外科	大野 孝生
16	おおの乳腺・甲状腺クリニック	大野 毅
17	あきよし都美内科クリニック	秋吉 都美
18	はやしだ内科	林田 正文
19	岩永医院	岩永 信昭
20	さとう内科医院	佐藤 辰夫
21	元永内科クリニック	元永 一郎
22	たくま医院	詫摩 和彦
23	影浦内科医院	影浦 博信
24	松元クリニック	松元 定次
25	ながた大腸肛門クリニック	長田 康彦
26	ごんどう小児科	權藤 泉
27	ふくしまクリニック	福嶋 成幸
28	松尾内科医院	松尾 健吾
29	やまさき内科医院	山崎 英文
30	牟田産婦人科	牟田 邦夫
31	落内科医院	落 義男
32	広瀬クリニック	廣瀬 弥幸
33	川原内科クリニック	川原 健治郎
34	白髭内科医院	白髭 豊
35	麻生整形外科医院	麻生 英一郎
36	すぎやま内科・消化器科	杉山 英一郎
37	サイノ脳神経外科	道祖尾 伯史
38	山根内科胃腸科医院	山根 豊
39	のぼる内科クリニック	吉田 登
40	しながわ内科クリニック	品川 達夫
41	南長崎クリニック	難波 裕幸
42	サイクサ外科医院	立石 修三
43	福田医院	高岸 有子
44	中村内科医院	中村 正幸
45	田中外科眼科クリニック	田中 ともゑ
46	田中外科眼科クリニック	田中 研次
47	みね形成外科・美容皮ふクリニック	峯 龍太郎
48	みね形成外科・美容皮ふクリニック	峯 友梨
49	宮崎内科医院	宮崎 正信
50	ゆきなり・クリニック	行成 壽家
51	藤田クリニック	藤田 晃
52	高橋整形外科クリニック	高橋 克郎
53	安井小児科医院	安井 誠
54	江上耳鼻咽喉科医院	江上 直也
55	三浦産婦人科	三浦 清樹
56	三浦産婦人科	三浦 佳由子
57	三浦産婦人科	梶村 秀雄
58	三浦産婦人科	三浦 成陽
59	ヨゼフクリニック	高木 正剛

No.	医療機関名	医師名
60	ヨゼフクリニック	高木 正剛
61	愛育小児科医院	田中 司
62	おおみや小児科医院	大宮 朗
63	星子医院	星子 浄水
64	星子医院	星子 龍英
65	井手外科医院	井手 聰
66	植松整形外科医院	植松 伸久
67	出口小児科内科医院	出口 忠澄
68	中村内科クリニック	中村 憲章
69	田川耳鼻咽喉科診療所	田川 幸雄
70	おおくぼ乳腺クリニック	大久保 仁
71	コムロ耳鼻咽喉科クリニック	小室 哲
72	赤司消化器クリニック	赤司 有史
73	長崎みどり病院	上戸 穂高
74	あおぞら内科クリニック	笹山 一夫
75	有高クリニック	有高 知樹
76	白ひげ整形外科医院	白髭 章
77	藤井外科医院	藤井 卓
78	花みずきレディースクリニック	濱崎 哲史
79	花みずきレディースクリニック	犬塚 邦彦
80	花みずきレディースクリニック	宮本 正史
81	赤澤内科クリニック	赤澤 美保子
82	富永小児科医院	富永 典男
83	杉田レディースクリニック	杉田 豊隆
84	高木クリニック	高木 雄二
85	松原牟田内科小児科医院	牟田 隆也
86	西じま内科クリニック	西島 教治
87	はまのまち内科循環器内科	伊藤 昭
88	おおつる内科医院	大津留 泉
89	いとう内科医院	伊東 昭郎
90	こが内科外科クリニック	古賀 崇
91	藤瀬クリニック	藤瀬 直樹
92	安永脳神経外科	安永 暁生
93	ひさまつ腎・泌尿器科クリニック	久松 浩
94	中川外科医院	中川 元道
95	もとかわ耳鼻咽喉科	本川 浩一
96	ホーム・ホスピス中尾クリニック	中尾 勘一郎
97	近藤医院	近藤 敏
98	森医院	森 頼隆
99	野田消化器クリニック	野田 剛稔
100	しもむら産婦人科	下村 修
101	池田整形外科クリニック	池田 倫太郎
102	中西内科	中西 俊明
103	武田内科医院	武田 宣士
104	やまもと内科呼吸器クリニック	山本 眞志
105	ささの耳鼻咽喉科クリニック	佐々野 利春
106	原田医院	原田 知行
107	津田眼科医院	津田 佳助
108	ふくだこどもクリニック	福田 友子
109	津田耳鼻咽喉科医院	津田 祥夫
110	もとむら産婦人科医院	金子 啓二郎
111	中山小児科クリニック	中山 紀男
112	田村内科神経内科油木坂クリニック	岩永 圭介
113	つつみ内科クリニック	堤 恒雄
114	山川内科	山川 賢一
115	やました内科	山下 まり子
116	深堀内科医院	深堀 茂樹
117	津田やすお眼科	津田 恭央
118	山口内科・循環器内科	山口 達之

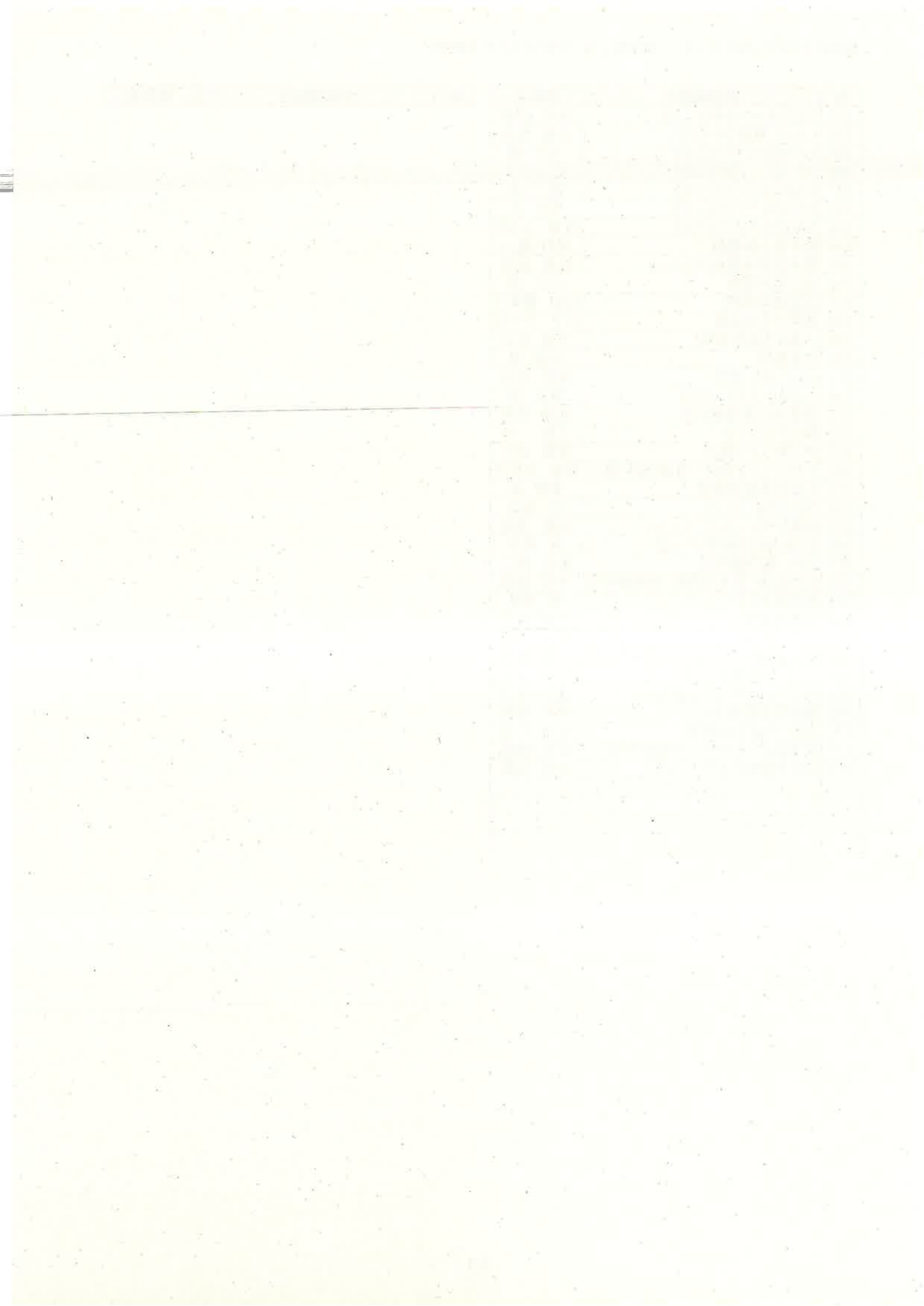
No.	医療機関名	医師名
119	あんず整形外科	高木 謙司郎
120	みどりクリニック	坂本 俊文
121	長与よこた眼科	横田 怜二
122	星野内科呼吸器科クリニック	星野 和彦
123	りゅうキッズクリニック	劉 美成
124	長崎市池島診療所	村川敏春
125	新クリニック	森 貴俊
126	池田胃腸内科医院	池田 幸紀
127	天本内科医院	天本 大輔
128	諸熊医院	諸熊 正史
129	諸熊医院	高島 治子
130	おひさまこどもクリニック	尹 忠秀
131	牟田内科・循環器科医院	牟田 啓三
132	森こどもクリニック	森 了吾
133	せとぐち外科クリニック	瀬戸口 正幸
134	平井内科医院	平井 義修
135	みきクリニック	杠葉 美樹
136	伊藤クリニック	伊藤 年徳
137	櫻川循環器内科クリニック	櫻川 浩一郎
138	かたやまハートケアクリニック	片山 敏郎
139	さくら形成クリニック	鬼塚 圭子
140	阿保外科医院	阿保 貴章
141	みやぞえ小児科医院	宮副 初司
142	佐藤クリニック	佐藤 英輔
143	井手内科クリニック	井手 政利
144	まさき内科呼吸器クリニック	真崎 宏則
145	朝長整形外科クリニック	朝長 久雄
146	木谷医院	木谷 泰博
147	山の手クリニック	中谷 晃
148	はらかわ内科クリニック	原川 誠二郎
149	松元リカバリークリニック	松元 志朗
150	金子眼科クリニック	金子 昌幸
151	右田医院	右田 礼二郎
152	諸熊内科医院	立石 訓己
153	鳴見台山中クリニック	山中 静夫
154	谷川放射線科胃腸科医院	谷川 健
155	きのしたこどもクリニック	木下 英一
156	こもり内科医院	小森 宗敬
157	麻生外科医院	平田 恵三
158	さとう内科医院	佐藤 剛
159	平松クリニック	平松 征生
160	天野内科	天野 秀明
161	ハンモト耳鼻咽喉科医院	橋本 清
162	佐藤和眼科医院	佐藤 和雄
163	松本循環器内科医院	松本 保和
164	しまながクリニック	嶋長 正樹
165	高原中央医院	高原 聡
166	高原中央医院	須賀原 育子
167	さかもとクリニック	坂本 晃
168	吉見内科胃腸科	吉見 公三郎
169	奥平外科医院	奥平 定之
170	森内科クリニック	森 久光
171	なかお耳鼻咽喉科	中尾 善亮
172	矢上藤尾大坪外科胃腸科	藤尾 俊之
173	黒部医院	黒部 勝則
174	中嶋クリニック	中嶋 眞
175	ながさき内科・リウマチ科医院	坪井 雅彦
176	秋山内科医院	秋山 盛登司
177	中田内科	中田 雅也

No.	医療機関名	医師名
178	清原龍内科	清原 龍夫
179	清原龍内科	清原 龍彦
180	木下漢方内科クリニック	木下 節生
181	秋山眼科クリニック	秋山 和人
182	石川内科クリニック	石川 秀文
183	西田内科胃腸内科医院	西田 義之
184	戸田内科	戸田 源二
185	みのり会診療所	天本 俊太
186	三島内科医院	三島 致衍
187	あしざわ内科	芦澤 麻美子
188	ひぐち医院	城野 恵理
189	おおぞら整形外科	原田 真一
190	坂本内科	坂本 裕二
191	出口外科眼科医院	出口 雅浩
192	たがわ内科	田川 秀樹
193	長崎腎病院	船越 哲
194	もりハートクリニック	森 秀樹
195	山崎医院	磯本 恵理子
196	猪狩医院	猪狩 民生
197	泉田外科	泉田 弘行
198	やなぎクリニック	柳 忠宏
199	やなぎクリニック	柳 忠道
200	さくら内科	佐々木 豊裕
201	山元内科	山元 秀文
202	たじま内科消化器内科	田島平一郎
203	神浦診療所	丸林秀太郎
204	藤本クリニック	藤本 正博
205	どうつ耳鼻咽喉科クリニック	道津 充
206	石川内科医院	石川 壽
207	矢上藤尾大坪外科胃腸科	大坪 光次
208	山口整形外科医院	山口 重嘉
209	山口整形外科医院	山口 和博
210	みしま内科・消化器内科クリニック	三嶋 亮介
211	松崎内科循環器科	松崎 忠樹
212	森光泌尿器科クリニック	森光 浩
213	いわさきJクリニック	岩崎 貴裕
214	はたち耳鼻咽喉科クリニック	畑地 憲輔
215	大浦診療所	上尾 真一
216	かたやまハートケアクリニック	片山 二郎
217	川崎医院	川崎 智子
218	山崎医院	山崎 洋二
219	おくの内科クリニック	奥野 信一郎
220	新里クリニック浦上	新里 健
221	新里クリニック浦上	新里 健暁
222	新里クリニック浦上	松下 哲朗
223	井川内科医院	井川 長年
224	糸柳プレストクリニック	糸柳 則昭
225	まつお産科・婦人科クリニック	松尾 敦
226	山崎整形外科医院	山崎 浩二郎
227	馬場医院	馬場 是明
228	まつもと内科・麻酔科クリニック	松本 正順
229	なかやま内科診療所	中山 史生
230	おぐし内科・眼科	小串 亮三
231	おぐし内科・眼科	小串 玲子
232	しもぐち内科	下口 和矩
233	宮村眼科	宮村 紀毅
234	安中外科・脳神経外科医院	安中 正和
235	なかしま内科クリニック	中嶋 寛
236	重工記念長崎病院	渡海 大隆

長崎みなとメディカルセンター 連携医一覧(令和7年3月31日現在)

No.	医療機関名	医師名
237	ながさきハートクリニック	坂井 秀章
238	しらいし胃腸クリニック	白石 良介
239	たちばなペイクリニック	今村 剛
240	たちばなペイクリニック	南 ひとみ
241	たちばなペイクリニック	南 一敏
242	たちばなペイクリニック	今村 汪
243	たちばなペイクリニック	安部 ひろみ
244	田中皮ふ科医院	田中 敬一
245	長崎宝在宅医療クリニック	松尾 誠司
246	山辺歯科医院	山辺 滋
247	山辺歯科医院	山辺 優美子
248	長崎けやき医院	山下 三千年
249	いまみち歯科医院	今道 友之
250	江良医院	江良 修
251	はらだ内科医院	原田 義高
252	ながさきひまわり眼科	藤田 皓
253	武藤内科循環器内科	武藤 成紀
254	築町クリニック	三島 一幸
255	かご町サトウ医院	佐藤 綾子
256	T・Iクリニック長崎～乳腺外科・婦人科	渡海 由貴子
257	たかの耳鼻咽喉科	高野 篤
258	ウチカラクリニック	森 勇磨
259	田栗レディースクリニック	田栗 博紹
260	もり脳神経外科クリニック	森 勝春
261	さかい循環器内科	坂井 健二
262	長崎駅前 ほんだ内科・内視鏡クリニ	本田 徹郎
263	胃腸科もりクリニック	森 宣陽
264	大久保医院	片峰 智子
265	大久保医院	奥井 俊治
266	慶友銀座クリニック	大場 俊彦
267	よしかわ訪問クリニック	吉川 大介
268	おにつか内科・消化器科	鬼塚 康德
269	香焼民主診療所	本石 裕也
270	なないろ皮ふ科西宮	中村 文香
271	滑石まごころクリニック岩永内科	岩永 浩昭
272	こせき整形外科クリニック	小関 弘展

No.	医療機関名	医師名



## 地域医療従事者に対する研修について(令和6年4月～令和7年3月)

講演会・研修会 目的:当院の診療状況を発信する事で、地域医療機関・その他の医療従事者との連携を深める

No	開催日時	演題	講師(敬称略)	参加人数	うち院外参加人数
①	令和6年8月9日(金) 18:00～19:00	脂肪肝の治療	(当院副院長兼消化器内科診療科長)	46	20
②	令和6年8月16日(金) 18:00～20:00	長崎みなとメディカルセンター救命救急センター・長崎市 消防局合同勉強会	※勉強会のため 講師なし	53	36
③	令和6年9月19日(木) 19:00～20:30	①妊娠・授乳と薬 薬剤師相談対応業務の体制整備と現在地 ②妊婦・授乳婦に対する薬剤師の役割 ～プランディングの観点から～	① (当院薬剤部がん専門 薬剤師) ② (慶應義塾大学病院薬剤部主任)	50	39
④	令和6年10月10日(木) 18:00～19:00	甲状腺の手術について～手術適応からビデオ補助手術(VANS)まで～	(当院乳腺・内分泌外科診療部長)	34	9
⑤	令和6年11月19日(火) 18:00～19:00	医療機関が治験で順守すべき ことについて	(長崎大学病院 臨床研究センター長)	30	14
⑥	令和6年12月6日(金) 18:00～19:00	いまさらヒトに聞けない骨粗鬆症の基本	(当院整形外科診療科長兼長兼リハビリテーション部長)	46	13
⑦	令和7年1月15日(水) 18:00～19:30	卒前・卒後教育の流れにおける現状の課題と解決へのアプローチ	(国際医療福祉 大学教授)	38	17
⑧	令和7年1月30日(木) 18:00～19:00	女性特有の疾患と女性ホルモン	(当院産科・婦人科診療部長)	46	15
⑨	令和7年2月5日(水) 17:30～18:30	住み慣れた地域で暮らし続けるために ～ホスピスマインドを持った関わり～	(hospice mind LLC CEO:緩和ケア認定看護師)	43	24
⑩	令和7年2月5日(水) 18:00～19:30	介護と医療を考える講演会	(デイサービス センターサンハイツ所 長)	53	41
⑪	令和7年2月7日(金) 18:00～19:30	退院後の生活を見据えた入退院支援	(日本赤十字社和歌山医療センター 患者総合支援センター 在宅看護専門看護師)	79	19
⑫	令和7年2月13日(木) 18:00～19:30	①小児の食物アレルギーについて ②食物アレルギー児の食事に ついて	① (当院小児科診療部長) ② (当院栄養管理部係長)	66	32
⑬	令和7年2月28日(金) 18:00～19:00	変形性関節症について	(当院整形外科診療科長兼リハビリテーション部長)	32	3
⑭	令和7年3月12日(水) 19:15～20:00	①当薬局におけるトレーニングレポートの運用と現状について ②トレーニングレポートの課題を考えてみる	① (アイン薬局長崎中央店薬剤師) ② (当院薬剤部薬剤師)	25	16
⑮	令和7年3月14日(金) 18:00～19:00	がんロコモ・がんのリハビリテーションについて	(当院整形外科診療科長兼リハビリテーション部長)	21	2
⑯	令和7年3月25日(火) 19:00～20:10	地域におけるトレーニングレポートを含めた薬業連携 ～自局における癌・心疾患・糖尿病患者等への取組み～	(長崎市薬剤師会常務理事、広域病院対策委員長、有限会社トマト・ファーマシーとまと薬局代表取締役)	24	18
合計				686	318

